

## 第35回市長と住民の「こんだん会」

～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～in東部地区

### 開催報告書



- 1 日時 令和5年9月3日(日) 午前10時～11時40分
- 2 場所 東部地区防災緑地
- 3 テーマ お城の東「東部地区」～安心して暮らせる街をつくろう～
- 4 参加者 28名

市長、地域づくり課長、東部地区町会連合会（3名）、清水小学校避難所運営委員会（6名）、東部地区を花で元気にする会（2名）、元健康づくり推進委員会（1名）、キャラクター考案者、清水西町会（2名）、南上横田町町会（2名）、傍聴者（8名）、東部地区地域づくりセンター長

#### 5 事例発表

##### (1) 町会連合会【交通安全講座】

ア 東部地区では「安心して暮らせる街をつくろう」を目標として、「防災活動」と「交通安全」を活動テーマに令和3年度から継続的に実践してきた。

イ 令和3年度は、各町内公民館での出前講座。令和4年度は、各町内公民館での出張ふれあい健康教室の中で、作成した危険箇所マップの周知ということで、地区内33か所の危険箇所の周知、市内で発生した交通事故事例の紹介を、交通安全協会の協力で実施した。

ウ 令和5年度は、全体講座という形で、夏の交通安全やまびこ運動の期間に合わせて、毎年夏休み最初の日曜日に実施している楽しいラジオ体操後、夏休みを迎えた子どもの交通事故防止、ヘルメットの着用促進を目的に、松本市自転車推進課、松本警察署、信州名鉄運輸株式会社の協力で、急制動実験、道路横断時の注意点、車の死角と内輪差、自転車の安全な乗り方などを目の前で見て、実際に体験して「大切な人を守る、大切な自分を守る」という基本を学び直す良い機会になったと思う。このような大々的な交通安全講座は、市内では初と聞いている。

エ また、いろいろな機会を通して様々な活動もしている。

福祉ひろば事業では、春秋の交通安全ウォーキング。令和4年度には、交通安全教育車チャレンジ号による交通安全教室では、特殊詐欺寸劇、運転・歩行能力判断システム点灯くん、歩行者シミュレータ体験、シール型反射材配布などを実施した。  
オ 高齢者宅の訪問に合わせた交通事故防止啓発活動も実施しており、市自転車推進課、松本警察署、中央地域包括支援センター、福祉ひろば、地域づくりセンターで訪問し、シール型反射材を靴の踵に貼り付けるなど啓発活動を実施している。



## (2) 清水小学校避難所運営委員会【清水小学校避難所開設・運営訓練】

ア 東部地区14町会では、清水小学校避難所運営委員会を、令和元年9月に設置したが、具体的な行動計画を作成するまで至らなかった。

イ 令和4年度に入って、令和5年度に清水小学校に避難所を開設し、運営訓練を行うことを決定し、令和4年6月には、町会連合会、日赤奉仕団、防災部の20人が、令和元年10月に長野市長沼地区で台風19号の影響による堤防が決壊し、約4,000棟の住宅が被災し、災害関連死を含め17人が犠牲となった現場を訪れ、避難誘導や避難所開設などの状況を視察した。

ウ 準備の状況では、今年1月と5月、避難所運営委員会を2回、延べ60人に参加いただき開催した。

活動班として総務班、管理班、情報班、物資班、衛生班、食事班、救護班を組織し、総務班を除き各班長は、本日出席の清水小学校の地元の清水東町会の役員の皆さんに引き受けてもらった。

エ 各班の学習会を1月から2月にかけて延べ5回で124人、各班の打合せ会を4月に延べ4回で124人、5月28日には、6月4日に向けてリハーサルをそれぞれ実施した。

オ 実際の訓練の状況では、参加者は運営委員会委員、活動班員106人、避難者は運営委員会委員、活動班員を含めて127世帯、158人でした。

- カ 避難所の応急危険度判定講習、防災倉庫の開け方や備蓄品は何かがあるのか、実際に電気が止まった場合の発電機の使い方、避難所運営会議を行い、各班にそれぞれ活動をしていただいた。
- キ 管理班は避難者受付。情報班は災害情報の貼り出し。衛生班は非常用携帯トイレの設置とゴミ置き場に分別を表示。物資班は段ボールベッド、毛布の搬入、設置。救護班はテントの設置、毛布を使った担架づくり。食事班はアルファ米に焼き鳥缶の卵とじの炊き出し訓練を行い、参加者全員に提供し試食していただいた。
- ク 避難者の方にも見学やお手伝いをお願いし、反省点はいくつかあったものの、おむね避難所設置及び運営については、初期の目的が達せられた。
- ケ 今後は、避難誘導や安否確認の方法、日本全国で見られる線状降水帯の発生による多量の雨量による女鳥羽川やそこに流入する河川の流量制限、河川内の樹木や雑草の除去について検討していく予定。
- コ 6月22日には、松本市防災物資ターミナル、陸上自衛隊松本駐屯地で災害時の備えなどの視察研修を行った。
- サ 最後に、1月から13回にわたって、市危機管理課職員の皆さんに、避難所開設の説明や指導をいただき何とか第一歩を踏み出すことができた。ありがとうございました。



#### 〈市長〉

- 交通安全に関しては、目の前の国道143号線がなかなか歩道を広くするという状況にない中で、三才山や美ヶ原といった東信地方から市街地に入って来る車で交通量が多くなり、渋滞となるということが構造上なっている。
- 子どもに対する交通安全教室を、地元の皆さんに行っていただくことの重要性に市も協力し、できる道路改善にも取り組んでいかなければいけないと改めて思った。
- 避難所開設・運営訓練については、第3地区が源池小学校を避難所として今までに大規模な避難訓練を行ってきた経緯がある。全市的に広げていきたいと思っ

ている。

- 今回清水小学校で初めて経験をしていただいたということで、今回見えてきた課題を次は克服するというで継続をしていただきたいと思う。危機管理部や住民自治局も協力したいと思う。
- 大地震はいつ来るかわかりませんし、猛暑の反動として9月以降の台風や大雨に備えることは今まで以上に重要になる。地域の皆さん、よろしく願います。

### (3) 東部地区を花で元気にする会【エクセラン高校との園芸交流会】

ア 会の目的は、市長が会長の花いっぱい運動に、東部地区としても花をいっぱいにして松本を盛り上げていければと、町会長会議で取り上げ、自分たちのできる範囲でと考え、町会連合会長を始め皆さんに協力をいただき会ができた。

イ まずは東部公民館の前を花でいっぱいにして、公民館に来ていただく皆さんを少しでも元気にできればと活動を開始し、まずは入口の花壇を整備し、花を植えることにした。

6月14日には、ただ花を植えるのではなく、地域の皆さんと一緒に、エクセラン高校の生徒や先生から指導をいただき、一本一本大切に花を植え、大変貴重な花壇ができた。

ウ 花植え後エクセラン高校の生徒の皆さんと、お茶を飲みながら色々な話ができた。また秋にも花植えや福祉関係で一緒に活動しようと呼びかけたところ、来ますという答えをいただいた。

エ 現在花の水やりは、ボランティア部の皆さんに、当番制でやっていただいている。

オ 今後、東部地区として、花をいっぱいにして松本を盛り上げるために、どのような取り組みをしていけばいいのかを検討している。

その取り組みとして、7月28日には山梨県立フラワーセンターハイジの村へ視察に行った。

カ 今年度、花いっぱい花壇コンクールに応募し、審査の結果、今回取り組んだ活動が優秀賞をいただいた。一緒になって花いっぱい運動に参加した多くの皆さんが喜んでいる。

キ 今後、東部地区町会連合会としても、花いっぱい運動を活発にして、松本を盛り上げられればと思う。これからも市の指導を賜りたい。

ク 植物は地球環境にも優しく、人々の心を和ませる。今回、花いっぱい運動に参加し、東部地区が盛り上がったことを嬉しく思う。

### 〈市長〉

- 花いっぱい運動は、戦後間もないまだまだ地域が荒廃している時に、当時松本市の教員だった小松一三夢先生が提唱したものが全国に広まったという経過がある。
- 最近、花いっぱい運動に携わる、あるいは地域の花壇を維持、管理することの大変さが、高齢化と同じような問題で町会活動に少し元気がなくなりつつあるというのが正直なところであった。
- 今回、これだけまとまった大きな花壇を作るということ。そしてそこに高校生が

一緒になってやるような仕掛けができたことが、東部地区にとっても元気の源にもなるし、他地区にも良い事例としてもっと伝えていければと思った。

- 色々な地区を回って、地域に若い人や子どもたちが少なくなっているという時に、何か一緒になってやれることを地域の皆さんが提唱して、旗を掲げて関わってもらったら、実はそれを待っていたという大学生や高校生が結構多い。なかなかきっかけがないので、本当は行きたいけど行けないということが見受けられた。エクセラシオン高校とのとの繋がりは、東部地区の大きな財産にしてほしい。

#### (4) 元健康づくり推進員会、キャラクター考案者

【あずまちゃんと歩こう～東部地区&その周辺ウォーキングマップ～活用の取組み】

ア 健康づくり推進員会は、長い歴史を持っていたが、残念ながら令和4年度をもって活動が終わるということで、形になるもの、皆さんの役に立てるものをまとめて残しておきたいとの思いで、自分がイラストの仕事をしていたり、小澤さんが体操のために可愛らしいキャラクターを作ってくれていたのので、それをまとめる形でマップを作ろうということになった。

イ 安心して暮らせる街をつくろうという東部地区の目標の中、福祉ひろばと共同でウォーキングを企画したが、先ほど市長からもお話があったように非常に危ない地区で、外へ出て歩くのがかえって危ないのではないかということになった。

ウォーキングの際は、交通安全協会の土屋さんにいつも引率していただき、また危険個所の地図も作っていただいていたので、それも取り込んだマップを作った。

ウ 悪い姿勢で歩くとかえって健康に害があるということ、福祉ひろばに来られる健康運動指導士の西山知花先生から教わっていたので、準備体操、歩く時の姿勢、歩いた後のケアを学んでから歩こうということになった。

エ マップの特徴としては、あまり観光的なものは載っていないが、危険個所の地図を土屋さんに協力いただきながら、オレンジ色で示した。

この辺の地域の特徴として、旧市内ということで歩道が狭い、交通量が多い中をいかに安全に歩くかということをやっている。特に雪が積もった冬の国道143号線を歩くのは危ない。

オ もう一つの特徴は、高齢化が進んで、一人暮らしの高齢者が多いということが言われている。裏を返すと便利な地区で、お年寄りでも一人で楽しく住める。

買い物ができる商店があって、病院もたくさんあり、市役所も近いので年をとっても一人で生活できる地区と前向きに捉え、運動ができて一人で歩くことができ、みんなで集まって公民館でお茶して、花を見てといった良い地区になればと思う。

カ お年寄りの皆さんに、楽しく体操をしてもらうには何がいいだろうと考えた時に、昔の子どもはおかっぱ頭の女の子が多かったと思い、そこからずっと入れるのではないかと思いキャラクターを考えた。それを見てたくさん体操をしてもらえると嬉しい。

また、「あずまちゃん」という名前は公民館で公募してもらい、みんなで決めた。



#### 〈市長〉

- 健康づくり推進員の制度は長く続いてきたが、それぞれの地区の取組みと、皆さんが年に1、2回集まることが形式化してしまったという意見をいただく中で、一旦制度に区切りをさせていただいた。それぞれの地区で取り組んできたウォーキングを始めとした健康のための取組みは、続けてほしいということが前提にあった。
- 今回、東部地区の皆さんがマップをこういう形で引き継いでいただくようになって、改めて拝見したが、歩いてはいけない所や適していない所など、あまりきれいごとが書いてないのが良いと思った。

横断しなければいけない所が一定程度あっても、危険な所は承知でそれを避けて歩いたら楽しい場所があるよというのがこのマップであり、実践的なマップである。

- 湧水やトイレ、AEDまで載っているのも、私がもし東部地区の住民だったら、肌身離さず持ちたいような内容になっていると思った。

若い人たちにも共有してもらい、スマートフォンでも見れるような形になれば利用する方も増えるだろうし、35地区の中でこういう取組みをしているということ、ぜひ他地区へもモデルとして伝えていきたいと思った。

- 旧市内は似たような環境にあると思う。道が狭く、歩きにくい所もある一方で、ちょっと入れば新しい発見ができるようなウォーキングコースになっている。なおかつそこが買い物場所も医療機関の場所もそれ程離れた所ではないので、年を取ってからも暮らし続けることができる松本市の中の旧市内ということで、この地区にとどまらないものとして進めていきたい。

- あずまちゃんのイラストは、東部地区に凄く合っている。ぜひ大切に育てていただき、あずまちゃんの弟や妹も考えていただけるといいと思う。

#### (5) 清水西町会【槻井泉神社湧水清掃活動】

- ア 私が子どもの頃は、槻井泉神社は水神様、脇にある池は大井戸と呼ばれていた。松本湧水群の中の一つだが、湧水と神社が初めから共存するのは非常に少なく、

そこに価値があると思っている。

イ この大井戸も最近まで、20年ほど前までは、飲料水としてあまり使われていなかった。洗濯や菜洗いなどの洗い物に使われていた。

ウ 町会役員の先輩の中に、この水をどうしても飲めるようにしたい、清水の名に相応しい状況にしたいと考える方がいた。

最初は金魚を飼う小型ポンプから始まり、色々な試行錯誤を重ね、平成29年には、市の協力もいただき現在の状況になった。

エ 水が飲めるようになると、近隣の人ばかりでなく、松本市を水巡りで訪れる旅行者を含め大勢の皆さんが訪れるようになった。

オ この状況を見た梶葉さんは、周りが汚いと来てくれる人に恥ずかしいということで、神社の脇にある目通りで6メートル70センチメートルもある樺の大木、ご神木の落ち葉や花殻を人が訪れる前から清掃活動をしていたが、毎朝日課として行っている。

私は、池の水が汚いと、その脇から水を汲んでいく人が美味しくないといい、池の掃除を主に担当している。

カ 池の掃除は、私ども二人のほか、町会役員や長寿会、子ども会は地域貢献活動の一つとして行っている。また、9月10日に行う市の一斉清掃日には、神社の周りを町民の皆さんにも行っていただいている。

キ ここで手短かに伝説を一つお話しする。木曾義仲は、2歳の時に父が戦に敗れ、敵の情けにより命を助けられたと色々な説がありますが、今で言う県の副知事に当たる中原兼遠の館が梶井泉神社の周辺にあって、木曾義仲が預けられ育てられたと。そして、木曾義仲と兼遠の娘巴御前との間に生まれた義高は、梶井泉神社の水を産湯に使ったという伝説です。今紹介したように、非常にロマンあふれる伝説です。

ク また、この池には、ご神木、大井戸、神殿が整っていて、ここに来ると何か幽玄の気を感じさせられる、何かホッとするような小さな空間です。近くを通りがかった際はぜひ立ち寄っていただき、ペットボトル等を持って水を汲んでいって飲むのはもちろん、コーヒーを入れたり、ご飯も炊いていただくと美味しいと思います。

#### 〈市長〉

- このような暑さが当たり前のようになればなるほど、水が身近な所にあることが貴重になってきていると思う。もちろんここに住んでいる方が、水道水として利用できるが、地域に水辺、湧水があるということが安らぎの気持ちに繋がる。
- 外国人旅行者を始め松本を訪れる方々にとって、水というものがこんなに街中にたくさんあって、気軽に飲めるということが、極めて価値の高いものだということを受け止めていただいている。
- 市内の市街地には色々な湧水があるが、一番東側にある梶井泉神社の湧水は、地元の皆さんに大切にしてくださいながら、旅行に来た方にここまで足を延ばしていただき、女鳥羽川周辺をお城から東まで来ていただけるような場所に、皆さんの努力と私どもの情報発信でしていければと思う。
- ペットボトルで水を飲む機会が多いが、若い人たちがマイボトルを持つようにな

り、ありがたいのは飲める湧水があること。飲んだ後また冷たい水をそこで補給できるというのは、マイボトルを持つことが習慣化してくると、湧水がある場所が、ウォーキングや街巡りの大事なスポットになってくる。この状態を続けてほしい。

- 先ほど紹介があったように、これまで梶葉さんが長い間、落ち葉の清掃をさせていただいて今に至る状況を伺った。92歳になりますが、ぜひこれを次の世代に引き継いで、若い人たちも時間がある時に参加できるような仕組みになっていけばと思う。
- 松本市内でも湧水ではない所での秋の落ち葉の問題は、住んでいる方々にとって切実である。一方で、例えば松本駅からあがたの森までの大通り沿いに、結構大きな木を植えてあるが、落ち葉やムクドリの問題があり、緑があまり生い茂ることを積極的に受け入れられないという地元の皆さんの声もある。この対策もきちんとやりながら、松本の街中に緑を増やしていくということが、訪れた方や松本で暮らすことが魅力的だと思っていただくために非常に大事だと思う。
- そういう意味でも、地域の人たちができるだけ若い人たちにも裾野を広げて、落ち葉の問題にも取り組んでいただける良い事例モデルとなって、他地区にも広がっていけばと思う。

#### (6) 南上横田町町会【ホタル観賞会】

ア 新聞記事の子どもたちの食らいつくような表情を見てほしい。自分が子どもの時は、この光景は当たり前だったが、今の子どもたちには当たり前ではない。遠くの山に家族で行って見ないとその体験を共有できないという状況になっている。しかし、今の子どもたちにとって当たり前だからということで終わらせてはいけないということがあり、散りばめられている宝の水源をいかしたいと思った。

イ 花いっぱい運動と一緒に、ホタルを見るという体験を通して、子どもや家族、町会の皆さんで同じ共有をすることで、笑顔になり心が豊かになる。家族も良かったねと笑いが出て、生活も豊かになる。そのことがのちの東部地区の豊かな生活に繋がればいいということが最終のゴールです。

ウ 市の環境・地域エネルギー課にホタルの生息マップがあるが、会社の裏が生息がゼロになっているという事実の上で、外来種を持ち込んでも生態系を崩さないという打合せを行った上で進めている。

エ 心と体が休まる場所という所で、ウォーキングマップに掲載してほしい。

オ 最初は近隣のみで20人くらいの規模だったが、今年度は東部地区全体に声がかかり、町会長を始め近隣からも子ども連れで来られ100人規模になった。来年は、市長も招待したい。

#### 〈市長〉

- 松本市全体でも市街地ではない所で見ることができたホタルが、なかなか見ることができている機会が少なくなっているという中で、市街地の中で見ることができるといふことの価値、短い期間ですが地区内外から人が来るといふことになると、先ほどの湧水と同じように東部地区にとっての大きなシンボル、みんなを、家族を元氣



にしようという象徴になっていくと思う。

- 花壇を始め色々なものを、皆さんが一つ一つ新たに動き出して行く。そしてそこに子どもや高校生など次の世代を引き寄せて行く。このことを大きな力にしていただきたいと思う。10日間であれば時間が作れるので、声をかけてほしい。

## 6 懇談

〈参加者〉

- 清水小学校避難所開設・運営訓練では、物資班を担当した。始めは何をやるかということがわからなかったが、参加することに意義があり良い体験になった。これを継続していくことが重要だと思う。非常に有意義だった。
- 清水東町会では、小学校の夏休み期間中、7月22日から8月17日までの27日間、毎朝6時30分からラジオ体操を行った。以前はPTAと共催で一週間だけやったが、周囲からの要望で、せっかくやるんだったら夏休み期間中やってほしいということで昨年からやっている。平均50人前後の方が参加していて、町会外の方も2名くらい参加している。東部公民館主催のラジオ体操も一日あるが、地区全体のラジオ体操として発展させたらどうかと思う。

参加者からは、体が本当に軽くなった、体操で足腰が良くなったなどの良い意見が出ている。ラジオ体操をぜひ推進していただきたい。

〈市長〉

- ラジオ体操は、どういう方を対象に呼びかけをしているのか。

〈参加者〉

- これは清水東町会主催でやってきている。以前はPTA、体育部共催でやってきた。昨年から町会主催でやっている。実際に参加された方の意見からも健康には良いので、地区全体でやってほしい。

〈市長〉

- 清水小学校に大勢の方が参加しても対応ができるということであれば、地区全体に呼びかけをするということは可能か。【➡ 可能（町会連合会長）】

地区だよりや連絡手段で、こういう取組みを夏休みに行うので参加くださいということで、50人の規模が100人を超えるようになって楽しめるという状況ですか。

〈参加者〉

- 自分が小さい頃は、学校でラジオ体操をやったが、今の子どもは、ラジオ体操が3種類あるがあまりやらない。PTA主催でやる一週間、子どもがやっている姿を見てもほとんど正しくできていない。町会では、1級ラジオ体操指導士にお願いして、4日間正しいラジオ体操を教わっている。残念なのは、PTA主催の時は子どもがそこそこ参加していたが、その後は少なくなった。我々が子どもの頃の感覚と、今の子どもたちの感覚は全く違う。体のためにも良いし、爽やかな朝の20分くらいなので、幅広く参加してほしい。

〈参加者〉

- PTAと主催の時は100人くらい、東部公民館と合同でやった一日間は230

人から250人くらい、以降は40人から50人くらいの参加者だった。来年も続けていきたいと思う。

- 清水小学校避難所開設・運営訓練では、衛生班長を担った。衛生班は主に簡易トイレの作り方やペット飼育場所の設営、ごみ置き場に分別表示を行った。訓練ではトイレの実演とはいかなかったが、実験的に水で固めることを行った。

この公園にも防災用のトイレが5基あるが、別にトイレが欲しい。近くにはせせらぎがあり、良い防災公園です。

- 先ほどホテルの話がありましたが、清水小学校の中庭にもホテルが出るそうです。

〈市長〉

- ラジオ体操を東部地区全体に呼びかけてやろうということは、町会長等を通してぜひともやっていただきたい。もう一つ、子どもたちに、ラジオ体操の体の動かし方をしっかり身に付けてもらう。十分でなければできるようになりたいと思う。

それと同時に、今の子どもたちは僕らの世代よりも体を動かすこと、ダンスをすることが好きで、見様見真似で軽快な音楽に合わせて体を思う存分動かす。

もしそういう部分も一緒にラジオ体操とできるとなると、行きたいという子どももいるのではないかと思う。ラジオ体操をしっかりやってもらうことと、今の時代、今の子どもたちにとって楽しいことが、健康や正しい運動、正しい体の使い方に繋がるような部分にも進んでもらいたい。それが東部地区全体に呼びかけられ、夏休みの期間中、大勢の子どもたちが、朝の30分間から1時間、清水小学校に来て楽しんでもらう。それがなかなかまだ他の地区でやりたくてもできていないことだと思う。皆さんが進めていく中で、参考にさせていただければと思う。

- 防災訓練の時のトイレの重要性は、奈川地区で年1回の防災訓練があった際も、避難所の中で簡易トイレを1回1回使い切るのか、それとも場合によっては複数回使うのかというような質問も出た。そしてどれだけの数を、追加の物資が防災ターミナルから送られて来るまで、最初の避難所が頑張らなければいけないのは何日間で、それにはどれくらいの数が必要かという質問も出る中、自分たちで備蓄の在り方を問い直していただいた。

先ほど町会連合会長から、以前はイベントを行う時には、公衆トイレをレンタルで借りていたが、費用が全体を上回るくらい高くなるので、今は置いていないが、やはりトイレの問題はあるという話を聞いた。

さらに、ここは防災公園としての役割をきちんと果たしていただくということからすれば、持ち帰って話をしたいと思う。

〈参加者〉

- 先ほど、槻井泉神社の湧水の発表をしたが、一昨年、法政大学の野田教授他が来て、松本市内の湧水の調査を行った。ミツカンで発行している「水の文化」という雑誌に、3回連続、槻井泉神社の湧水が掲載されている。また、筑波大学大学院の中国人の方が調査に来るなど注目されている湧水です。

〈参加者〉

- 清水小学校避難所開設・運営訓練では、情報班長として活動した。感想として、避難者にいかに情報を正しく伝えるかということに改めて感じた。  
4年くらい前に女鳥羽川が危険氾濫水位になった時に、防災行政無線も流れたが、市のサイトに繋がりにくいという状況があった。災害発生時も含めて対策をしてほしい。

〈市長〉

- 災害時、皆さんに最新の情報をどれだけ迅速に届けるか。市役所だけの情報だけではなくて、NHKという報道機関のものもあれば、国土交通省や河川管理者としての情報もあれば、諸々の情報の一番基点となる仕事を松本市役所が担うということになる。  
指摘のアクセスが集中すると対応できないという現実があるとすれば、普段からの準備、対応について点検したい。

〈参加者〉

- 移住して地域のこともまだまだ分からないが、主人といつも松本の公民館活動は活発で素晴らしいということ話す。
- 清水小学校避難所開設・運営訓練は、食事班長としてみんなに聞きながらやった。あの経験はすごく良かったと思う。  
その中で、食事を作る時に大きな鍋でお湯を沸かしたが、地震で余震が来た時にはとても危険だと思った。食事を提供する中で、二次被害を出してはいけないので、安全ということは大きな課題だと思った。そういう場合でも食べるということやはり大事なので、喜ばれるような非常食が提供できればいいと思う。

〈市長〉

- 大地震で避難している時に、大鍋でお湯を沸かして食事を作るということは適切ではないということだと思う。大雨災害時の避難所とはまた性質が違って来るかも知れないが、それぞれに対応するような、避難所の食事はどうあるべきかというようなことをしっかり考えていきたいと思う。
- 温かいものを食べたいということも、状況が落ち着いてくれば余計にそうなると思う。初動段階の食事と、落ち着いたけれども避難生活が長引いた状況の食事というものも考えていくポイントだと思った。
- 松本市の公民館や町会の利用がなかなか首都圏や大都会にはないというのは、私も7年前までは首都圏で暮らしていたので、改めて、故郷の皆さんがこうしたことを積み重ねていただいていることが貴重だと思っている。
- 一方で、課題となっている担い手が、高齢者の皆さんが中心になっていて、働き盛りや若い人たちが、参加できる部分には参加しやすい環境を作って、次の世代にどう引き継いでいくかということも課題だと思う。今日お話いただいた活動を通して、次の世代に色々な形でバトンを引き継いでいけたらと思う。

#### 〈参加者〉

- 皆さんの話を聞く中で、最後は若い人との繋がりをどうするかということだと思う。特に東部地区は高齢化が著しいということで、イベントをやっても来る方はほとんど同じ。子どもや孫を連れて来る方もいる。

そのような中、今年度どうするかということで、イベントの名称や内容を変え、最初は心配をしていたが、今日も200名を超える皆さんに来ていただいた。

- エクセラン高校や信州大学学生との繋がりが出来かかってきたので、東部地区ではもう一歩踏み込んで若い人たちに来てもらう、あるいは若い人たちからお年寄りの方に東部地区に来ないかということまで理想として持っていきたいと思う。

#### 〈参加者〉

- 持続可能な自治体活動をどうしていくかという部分で、松本市第5次男女共同参画計画があり、その中で市長は、ジェンダー平等のまちづくりをしていくと言っている。

私が言いたいのは、女性の町会長、自治会長を何とか増やせないかと。調べてみると、487町会のうち9町会、1.8パーセントが女性町会長だった。全国的にみると大阪府が15.3パーセントと高いが、最下位が群馬県でその次が長野県となっている。

今日も、見識や人柄、行動力も町会長をやるのに何の問題もない方もたくさんいますが、どちらがどっちなのかアンケートを取ってみると、男性に問題がある場合もあるし、女性も責任ある立場で町会に立つのは嫌だという意見も出ていますが、何らかの啓発活動で女性町会長を増やしてほしいと思う。

#### 〈市長〉

- 今指摘をいただいた部分は、実は私も本当に、問題というと皆さんに怒られてしまうが、是正したいと思っている。地域づくり課長に何とかならないのかということとは言うてはいるが、現段階では、いけないと思うという返答しか返ってこない。
- 松本市役所の女性管理職の割合が、私が市長を引き継いだ時で、11パーセントだった。市役所の場合、定期異動が4月1日付けで、私が3回人事をやったが、今年の女性管理職の割合を25パーセントまで引き上げた。来年は何とか30パーセントにすると。

この30パーセントという数字は、政府も2020年代の早い段階に、女性管理職を役所も企業も実現しようと呼びかけはしているがほとんどできていないし、現状のペースでいったら進まない。

私は、庁内的にはあまり評判が良くないこともあるが、男性職員に泣いてもらうしかない。泣いてもらうといっても、今まで女性職員が泣いてきた時代の積み重ねがあるので、男性に対しては、全体の7割が男性だから本来それはおかしくないと言いながら、私が30パーセントという数値目標を決めている。それから、人事部局がなかなか挙げてこないの、私が課長になりそうな職員のリストを見て人事を行って引き上げている。

- 色々な仕事の中で、おそらく町会長の仕事が一番女性が進出し難いと思う。地域で今まで男性中心の社会が出来ていて、実際にトップダウンでやっていて入ってい

くには、おそらく男性以上に女性の皆さんが、そこに行つて果たして自分が理解してもらえるだろうか、その上で男性がやってきた同じ仕事をやろうと思つてできるだろうか。男性の町会長が先に立つ状況は仕方ないと思う。

だからこそ、連合会長や男性の町会長の皆さんが、自分たちもバックアップするから東部地区の町会長をやってくれませんかと個別に口説き落として、まずは東部地区から狼煙を挙げてほしい。そして、東部地区ができて他でどうしてもできないのかということ、私も他地区へ広げていきたいと思う。まずは東部地区を重点地区としていきたい。

#### 〈市長〉

- 梶葉さんのように、あの場所をいつも毎日掃除をしていただいている方、あるいは他の場所では別の方が掃除をしていただいたりと、そういう方が松本市内には非常に多くいて、そのことの積み重ねといいますか、それを目にする周りの人たちも、できるだけゴミを落とさないようにする、気が付いたら拾うといったようなことに繋がっている。外から来た人に松本の街はきれいですねと言つていただいている。

そのきれいというのは、当然空が抜けるようにきれいだったり、アルプスの山並みがきれいだったりもあるが、ゴミが落ちていないですねという意味でのきれいですねということ、色々な方が松本に来て言っている。

本当に梶葉さんのような皆さんが、自分の生活の一番の足場になる、あるいはそこから少し足を延ばした所まで、毎日毎日掃除をされていることが一番基本にあつて成り立っていることだと改めて思った。

#### 〈傍聴者〉

- 松本城の入口は東側です。要するに東部を向いています。今は南側から入っているが、市役所を取り壊す時は検討をしてください。

#### 〈市長〉

- 今の正門といいますか太鼓門から入るということは、歴史的に皆さんが承知のことだと思つた。今松本城の南側と西側の周りを水をたたえたお堀の復元を、もう少し時間がかかるが段階的に計画を進めている。それができた時にはぐるっと水をたたえたお堀で二の丸は囲われることになり、そして10月7日に新しい博物館が開館したら、昔の日本民俗資料館、今の博物館の建物を取り壊す作業に入る。これが取り壊されると、東側に回って行きながら太鼓門からお城に入っていくという流れが生まれる。

一方でまっすぐ行く部分は、防災上の問題もあり残す。大名町から直進して入る皆さんもいるが、今お話しされたように、東側が本来の松本城の登城ルートですということ、きちんとしてPRしていく。そのことを実体験したいという旅行者の皆さんは増えてくると思う。

そして、その正面にある松本市役所の本庁舎を建て替えるわけですが、私はあそ

この本庁舎の所には行政機能の建物はいらないと思っている。あの場所に東側から入っていただくのに相応しいような使い方は何だろうというようなことで、幅広く市民の皆さんにもアイデアをいただいて、より松本城をより堪能していただける、しかもそれは、400数十年前の歴史に遡って堪能していただける周辺の環境づくりに努めていきたいと思う。

#### 〈参加者〉

- 50年前の中学生の時に、社会科の先生が借りた松本城昭和の大修理の時の16ミリの映画を見たことがある。それをもう一回見たいと思い、一回お城の床磨きの時に聞いてみたことがある。教育委員会かどこかの倉庫の隅にでもあるのではないかと聞いた。新しい博物館もできるので、それが使えるようになれば良いと思う。何とか探してほしい。

#### 〈市長〉

- 教育委員会文化財課、松本城管理課、新しくできる博物館の担当者にならなっているかということをお話したい。
- お城のことと言うと、今日の夜、大河ドラマどうする家康で、初代城主石川数正が家康から秀吉へ出奔して、それが何故かみたなことがドラマ上今夜だそうなので、そこは楽しみにしていただきたい。
- 私は、松本城の歴史というと三つ節目があると思う。
  - 一つは、最初に石川数正・康長親子が、あの天守閣を造ったことがスタート。
  - そして、明治維新で全国的に天守閣は取り壊す、軍事施設はいらないという流れの中であれを残そうということで、20代の若き新聞記者だったという経歴を持った市川量造を中心に、市民の皆さんがよしということでお金を出し合って、売却・破却を防いだこと。
  - そして三つ目は今のお城と。いずれの三つの節目をもっともっと市民にも共有していただいて、そしてそれを外国人を含め来た方々に、自分たちの言葉で語れるような状況にしていきたいと思っている。今の話もそういうことの中で考えさせていただく。

## 7 閉会

#### 〈市長（全体を通しての感想）〉

- 改めて皆さんが、東部地区に非常に愛着を持って様々な活動に取り組んでいることが、直接話を伺って良くわかった。もちろん若い人たちの参加を始めとした課題があると思うが、そのことに後ろ向きにならずに、何とか前を向いてこうやったらどうだということ、皆さん方が考えているということも非常に感じ取れたと思う。
- 最後に、女性町会長の実現だけはぜひお願いしたい。おそらく女性町会長が実現すると、私は参加する人たちの世代も間違いなく下がると思う。若い人たちが参加しやすくなると思う。年配の男性の方が言いたくなることも、ちょっと我慢していただいてという局面が出るかも知れないが、30パーセントとは言わないが、ぜひ

一人でも二人でもこの地区から女性町会長、そしてやはり女性と若者に選ばれるまちを、このお城の東側、一番正面の東部地区だからこそ率先垂範で進めてほしいと思う。

○ 今日で松本市内の35地区を一巡りした。

私の故郷は松本駅前、今で言う第一地区、旧町名で言うと新伊勢町で生まれ育った。小学校の時は、松本城の公園の中を歩いて天守閣を見ながら開智小学校に行き、開智小学校の奥には旧開智学校があると。The松本人だという自負を持って市長の仕事をしていただいている。

それであるが故に今はこの35地区が非常に大きくなって、平成の大合併をした四賀や奈川を含めて非常に多様で、それぞれが特色を持った大きく魅力のある都市松本になっていると思う。

ぜひ皆さん方と、この松本を、私が一番大風呂敷を広げる時は日本の都になると言っていますが、今も三ガク都ですから都みたいなものですが、本当の意味で日本の都に松本をするんだという気概で、皆さんと共にまちづくりに取り組んでいきたいと思う。



〈町会連合会長（お礼）〉

東部地区はお城の東ということで、東部という所に愛着、誇りを持って住んでいると思う。そこで皆さんが活動していることを、こういう形で市長に気楽に話ができるというのは、多分35地区の中で初めてではないかと思う。

要望ばかりしたような気もしますが、市長から東部地区で女性の町会長をとという宿題もいただいた。この市政広聴事業を続けていただくことが、女性町会長ができたという報告の場になると思う。

以上